

統計界で最高の栄誉とされる
大内賞の最後の受賞者が決定



(メダル表面)



(メダル裏面：「統計天下」大内兵衛)

1 大内賞の概要

大内賞は、戦後における我が国の統計の再建に政府の統計委員会委員長として尽力した大内兵衛博士の業績を記念して、昭和28(1953)年度に設けられたものである。我が国の統計の進歩に貢献した個人、団体等を顕彰するもので、統計界の最高栄誉とされており、前年度までに328名・5団体が受賞している。

2 令和4年度の大内賞受賞者

大内賞受賞者を選考する大内賞委員会（委員長：椿広計総務省統計委員会委員長）は、今年度の大内賞を次の5氏・2団体に贈ることを決定した。

(個人は氏名 50音順)

- 川崎 茂 氏 (東京都：元総務省統計局長、元日本大学経済学部教授)
- 北原 悦子 氏 (東京都：統計調査員)
- 澤村 保則 氏 (東京都：元総務省政策統括官(統計制度担当)付統計審査官)
- 林 きみ子 氏 (熊本県：統計調査員)
- 肥後 雅博 氏 (東京都：元日本銀行調査統計局参事役)
- 一般社団法人 日本経済団体連合会 経済財政委員会統計部会
- 一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会
公的統計基盤整備委員会

大内賞受賞者には、賞状のほか副賞として大内兵衛博士の横顔をデザインしたメダルと賞金が授与される。

3 受賞者の業績

- ・ 著書、論文等によって、我が国の統計実務の進歩に直接貢献した人、及び
- ・ 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

○ 川崎 茂 氏（東京都：元総務省統計局長、元日本大学経済学部教授）

長年にわたり統計部局に勤務し、多くの公的統計の企画・立案・実施、さらには統計の情報化のリーダーシップを発揮した。この間、内閣府統計制度改革検討推進室長として統計法改正のリーダーシップをとり、現在の統計制度の礎を築いた。また、総務省統計局長として、統計制度改革やインターネット回答の実装等に卓越した貢献。加えて、国連事務局、国連統計委員会議長等、我が国の統計専門実務の国際評価向上にも貢献し、さらに、日本統計学会会長として、大学で統計を専門として教員指導できる人材育成の必要性を提言し、統計エキスパート人材育成プロジェクトとして実現するなど、我が国の統計の進歩に貢献した。

- ・ 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

○ 北原 悦子 氏（東京都：統計調査員）

家計調査、毎月勤労統計調査、工業統計調査など41年間にわたり187回の統計調査に従事し、調査員合同指導会においては積極的に役割を担い、自らの体験を踏まえた助言や指導は他の調査員の模範となるなど、統計調査員の資質向上に努め、我が国の統計の進歩に貢献した。

○ 澤村 保則 氏（東京都：元総務省政策統括官(統計制度担当)付統計審査官)

約20年間にわたり、統計行政に関する企画・立案業務、統計調査の審査・調整業務など統計行政に従事し、この間、とりわけ「基本計画」の取りまとめにおいて、制度官庁の担当官として、盛り込む課題の整理や施策の企画立案、関係者との調整などの業務を率先して遂行し、基本計画の適切かつ円滑な取りまとめを進めるうえで中心的な役割を果たすなど、我が国の統計の進歩に貢献した。

○ 林 きみ子 氏（熊本県：統計調査員）

家計調査、工業統計調査、労働力調査など37年間にわたり114回の統計調査に従事した。中でも、調査世帯の理解を得ることが特に困難である家計調査には23年間にわたり従事し、統計調査業務を取り巻く環境が益々厳しくなる中、調査の円滑な実施に努めるなど、我が国の統計の進歩に貢献した。

- ・ 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人、及び
- ・ 統計の実務又は普及を通じ、我が国の統計の進歩に顕著な貢献をした人又は団体等

○ 肥後 雅博 氏（東京都：元日本銀行調査統計局参事役）

日本銀行統計作成部局に長年勤務し、同行作成の統計精度向上に多大な貢献をしたほか、総務省統計委員会担当室出向中に、「統計改革」の実行部隊を仕切り政府統計の改善に功績を残した。また、日本を代表して国際的な統計の会合に積極的に参加し、海外の知見を導入するのみならず、我が国統計についての正しい評価を得ることに注力するなど、我が国の統計の進歩に貢献した。

- ・ 統計の実務又は普及を通じ、我が国の統計の進歩に顕著な貢献をした人又は団体等

○ 一般社団法人 日本経済団体連合会 経済財政委員会統計部会

日本経済団体連合会が設立されて以降、基幹統計調査である経済産業省生産動態統計調査が各業界団体との密接な協力の下で実施されるなど、各業界団体の取りまとめ役として、公的統計調査の実施に多大の貢献をしている。また、近年の経済センサス及び経済構造実態調査の実施に際し、企業と調査実施部局間での情報・意見交換に尽力し、調査の円滑な実施に努めるなど、我が国の統計の進歩に顕著な貢献をした。

○ 一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会 公的統計基盤整備委員会

「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2005」で公共サービスの民間開放が打ち出され、それに基づき市場化テストが開始されたことを契機に公的統計基盤整備委員会が設置され、調査業界の各社が公的統計調査の受け皿となり、統計の品質と信頼性を確保するための活動をスタートした。また、同委員会発行の年次レポートを各府省の統計部局に配布し、公的統計調査と民間調査業界との相互理解の醸成に努めるなど、我が国の統計の進歩に顕著な貢献をした。

4 大内賞の終了について

令和3年度の大内賞委員会は、大内賞が創設後70年を経過し、受賞者数も約340名／団体を数えるに至り、広く統計関係者を顕彰してきた大内賞の奨励的意義は十分達成されたものと考えられること、また、大内賞創設当時には存在しなかった広範囲の統計関係者を対象とする表彰制度が、その後、多くの機関により創設されるに至っていることから、大内賞の使命は十分果たしたものと判断し、大内賞を令和4年度の第70回をもって終了することとした。

改めて、歴代受賞者の方々の我が国統計への多大な貢献に深甚の敬意を表する。

【参考】

1 大内賞の受賞資格・受賞者数

- (1) 著書、論文等によって、我が国の統計実務の進歩に直接貢献した人
- (2) 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人
- (3) 多年統計の普及に努め、我が国の統計の進歩に貢献した人
- (4) 統計の実務又は普及を通じ、我が国の統計の進歩に顕著な貢献をした人又は団体等

- ・受賞資格別受賞者数：(1)41名、(2)275名、(3)16名、(4)1名・7団体
- ・所属分野別受賞者数：研究者等15名、府省関係103名、地方公共団体関係57名、統計調査員74名、民間団体等職員71名、団体7、その他13名（調査対象農家・漁家）計333名・7団体

2 大内賞委員会の構成

大内賞委員会は、総務省統計委員会委員長を委員長とし、統計委員会の部会長（5名）により構成されている。

◆大内賞委員会事務局◆

公益財団法人 統計情報研究開発センター
担 当：湯井 要
電 話：03-3234-7478
E-mail：kanameyui@sinfonica.or.jp